

平成25年度公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート(1)

(区分) **国補**・県単

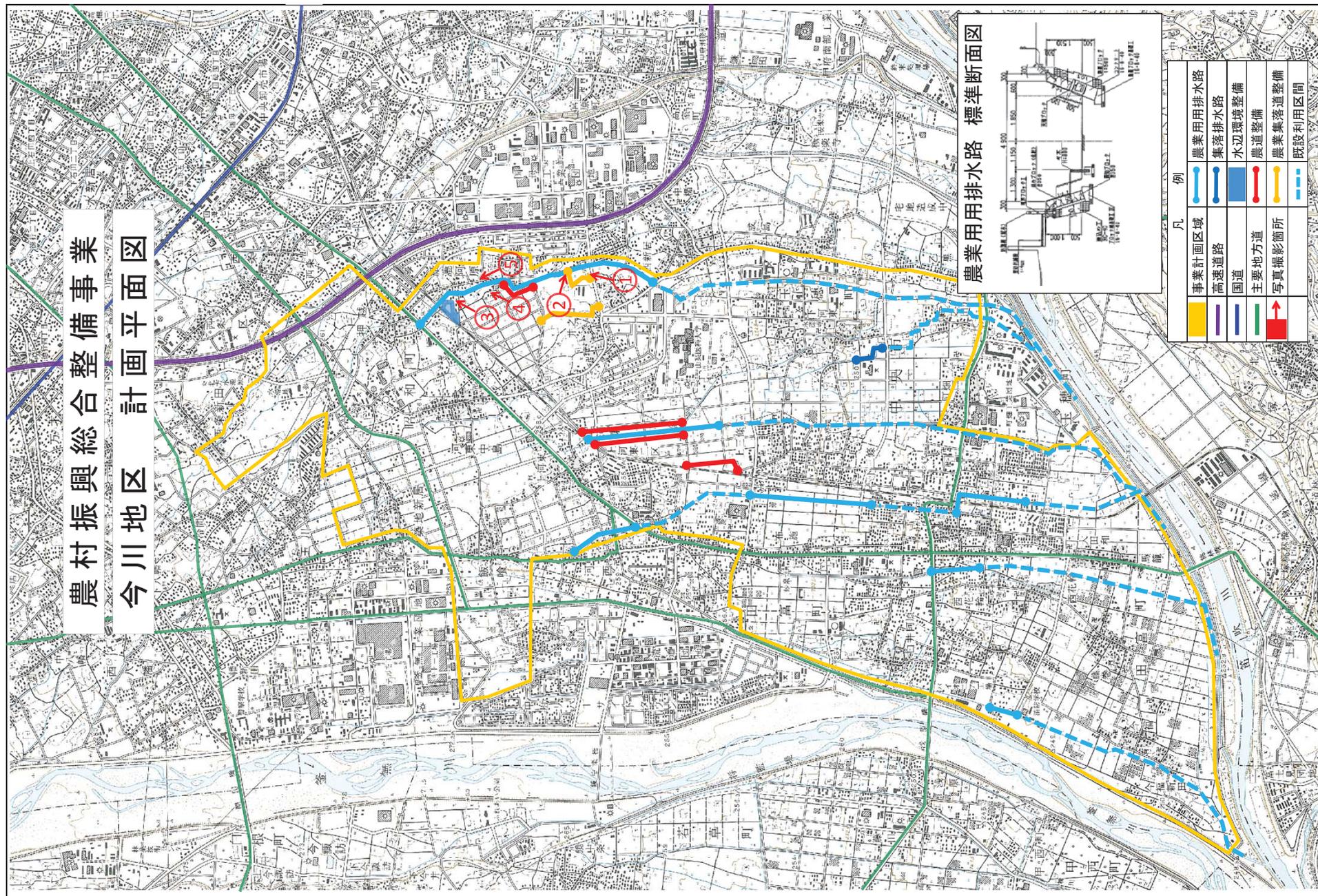
事業名	農村振興総合整備事業(国補)		事業箇所	中央市、昭和町		地区名	今川	事業主体	山梨県
(1)事業着手年度	H8年度	(2)事業期間	H8年度～H20年度		(3)完了後経過年数	5年	(4)総事業費	3,229百万円	
(5)事業着手時点の課題・背景						(8)事業位置図等			
<p>本地区は甲府盆地南部の中央市(旧玉穂町、旧田富町)、昭和町にまたがる、水路や河川が笛吹川に合流する低平地に位置し、水稻や野菜栽培が盛んな地域である。</p> <p>昭和時代の後半にかけて、甲府市のベッドタウンとして新規居住者が増加し、急速に進んだ混住化による土地利用の変化などの影響により、大雨の時には湛水被害が見られるようになった。また、かつて生息していた生物など自然環境が失われつつ有る状況において、地域の中で従来環境を保全していく機運も高まりつつあった。</p> <p>開発が進んだ住宅地と農地が隣接することから、農業基盤の整備と併せ住環境への配慮も求められる地域であるため、農業用排水路の整備を中心に、動植物の保護と快適な水辺空間の確保を念頭に本事業を実施した。</p>						省略			
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果									
(事前評価未実施)									
<input type="checkbox"/> 主要目標 ・ 農村生活・生産機能の向上 <input type="checkbox"/> 副次目標 ・ 集落間・小規模拠点施設へのアクセスの向上 ・ 農業用排水能力の向上 <input type="checkbox"/> 副次効果 ・ 生態系空間の再生									
(7)整備内容(目標達成の方法)									
農業用排水路整備(5路線)L=5,271m 集落排水路整備(1路線)L=289m 水辺環境整備(1箇所)7500㎡ 農道整備(4路線)L=1,863m 集落道整備(2路線)L=608m									

2. 評価シート（1）

<p>(1)事業貢献度 < (良) ・ 不良 ></p> <p>(理由) 農業用排水路を整備することにより、湛水被害の防止が図られ、農業生産性が向上した。 また景観・環境に配慮した整備を行い、地域住民の交流と憩いの場所を創設できた。</p> <p>① 主要目標 農村生活・生産機能の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業所得の増加額</td> <td>1,203千円/ha→設定せず</td> <td>2,390千円/ha</td> </tr> <tr> <td>農村公園受益者数</td> <td>673人/千㎡→設定せず</td> <td>980人/施設</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業所得の増加額が、評価基準値1,203千円/haを上回っている。 ・ 農村公園受益者数が、基準値673人/千㎡を上回っている。 <p>② 副次目標 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 農業用排水能力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全幅員4.0m以上道路延長率</td> <td>79.5%→設定せず</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>排水能力向上率</td> <td>1.00→設定せず</td> <td>1.49</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の完成により2.25kmが幅員4m以上に改良され、幅員4m以上道路延長率が100%となった。 ・ 排水路の整備により、排水能力向上率が1.49となり、基準値1.00以上を満たしている。 <p>③ 副次効果 生活環境</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生態系空間の再生</td> <td>水路の改修にあたり、生態系に配慮した整備を行ったことから、魚類や水生植物の生息空間が保全された。</td> </tr> </tbody> </table>	指標	着手時点数値等	評価時点数値	農業所得の増加額	1,203千円/ha→設定せず	2,390千円/ha	農村公園受益者数	673人/千㎡→設定せず	980人/施設				指標	着手時点数値等	評価時点数値	全幅員4.0m以上道路延長率	79.5%→設定せず	100.0%	排水能力向上率	1.00→設定せず	1.49	項目	内容	生態系空間の再生	水路の改修にあたり、生態系に配慮した整備を行ったことから、魚類や水生植物の生息空間が保全された。	<p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 < (有) ・ 無 ></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>3,129百万円</td> <td>3,229百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H8~H18</td> <td>H8~H20</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>未算出</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: center;">1.37</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 着手時点での経済効果は未算出 ※ 平成14年度再評価地区</p> <p>(要因変化の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総事業費：農道擁壁工の工法変更などによる事業費の増。 ・ 工期：用地取得の遅延などによる工期の延長。 <p>(3)事業実施による環境の変化 < (有) ・ 無 ></p> <p>① 自然環境への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 魚巢ブロック、水生植物育成箇所を設置し動植物へ配慮を行った結果、水路には、水鳥、魚類等の生育が図られた。 <p>② 生活・居住環境等への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用排水路の整備により湛水被害の発生防止が図られたため、生活環境の安全性が向上した。 ・ 辰垣守の整備により、辰耕車に比べて一般車両の通行も容易になり女性宅も大幅に向上した。 ・ 水路等水辺環境が整備され、散歩路等として多くの地域住民に利用されている。 また、水生植物の育成等の地域活動が活発になり、水辺空間が憩いの場として機能している。 <p>③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生態系に配慮した水路の整備により、魚類や水鳥が確認され、地域活動についてもキシウブの植栽や水路の草刈り、ホタルの保存等の活動が活発になった。 ・ さらに、水路沿いに桜や芝桜が植栽され、イベントも開催されるようになり、地域住民の生態系や景観保全への意識が向上した。 	項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	3,129百万円	3,229百万円	工期	H8~H18	H8~H20	経済効率性	費用	—	便益	—	B/C	未算出			1.37
指標	着手時点数値等	評価時点数値																																											
農業所得の増加額	1,203千円/ha→設定せず	2,390千円/ha																																											
農村公園受益者数	673人/千㎡→設定せず	980人/施設																																											
指標	着手時点数値等	評価時点数値																																											
全幅員4.0m以上道路延長率	79.5%→設定せず	100.0%																																											
排水能力向上率	1.00→設定せず	1.49																																											
項目	内容																																												
生態系空間の再生	水路の改修にあたり、生態系に配慮した整備を行ったことから、魚類や水生植物の生息空間が保全された。																																												
項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																											
総事業費	3,129百万円	3,229百万円																																											
工期	H8~H18	H8~H20																																											
経済効率性	費用	—																																											
	便益	—																																											
	B/C	未算出																																											
		1.37																																											

評価シート（2）

<p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 〉</p>
<p>① 社会経済状況の変化 ・なし</p> <p>② 関連計画・関連事業の状況の変化 ・なし</p> <p>③ 事業環境等の変化 ・なし</p>	<p>(理由) ・用地交渉が一部難航したため、農道の用地確保に想定外の時間を要し工期が延期となった。</p> <p>(具体的反映策) ・今後の事業計画にあたっては、現地調査を入念に行い計画の精度を高めると共に、適切な工期を設定し事業の時間管理を徹底したい。</p>
<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	
<p>・今回の事後評価において、増加所得額、施設利用状況等十分な効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法 ・時期： 年度 ・方法：</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p> <p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的反映策) ・なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(9) その他特筆すべき事項 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>
<p>(理由) ・なし</p> <p>(具体的改善策) ・なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) ・なし</p>	<p>・なし</p>



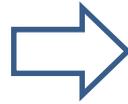


着手前
土水路や空石積み構造で水路断面が小さく、湛水被害が農地だけでなく住宅にも及んでいた。また、草刈り等の維持管理にも多大な労力を要していた。



着手前
幅員が狭く、車のすれ違いが困難な状態であり、歩行者も安全に通行出来ない状況であった。

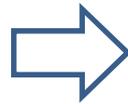
① 農業用排水路



①

完成後
水路断面が大きくなり、水の流れがスムーズになり維持管理も大幅に軽減された。さらに遊歩道を整備したことにより憩いの場が創出された。

② 農道／集落道



②

完成後
道路幅員を確保し、歩道も整備することにより安全性が確保された。

③地域の活動状況

水路断面を十分に確保し、水路内に水性植物を植生できる箇所を設置した。

地域住民の活動「今川を守る会」により、草刈りや水辺環境活動など、良好な管理がなされ、住民交流及び憩いの場が創設されている。

山梨日日新聞 平成25年5月10日



キシヨウブは、地域住民でつくる「今川を守る会」が10年前の河川改良工事に合わせて川沿いに植えた。毎年手入れを続け株数を増やしている。今年には150以上にわたって咲いている。同会によると、開花時期はほぼ例年通りだった。鮮やかな黄色の花を今月半ばごろまで楽しめるという。同所の今村美智子さん(80)は「群生しているキシヨウブが風に揺られている様は何とも言えず美しく、とても気持ちいい」と話していた。



③

④水路周辺状況



④

桜並木があり、遊歩道が整備され住民の憩いの場となっている。



⑤

水鳥が飛来し生態系が保たれている状況となっている。